

「2024 年度 武蔵大学入学式 学園長祝辞」

武蔵大学、並びに大学院研究科へご入学の皆さん、誠におめでとうございます。

コロナ感染症のパンデミックという非常に困難な状況が続いたにもかかわらず、勉学に励み、努力を続けた甲斐があって、この伝統ある武蔵大学に入学された皆さんに心からお祝いの言葉を贈ります。また、このように優れたお子様を育てられた保護者の方々にも心よりお祝いを申し上げます。

武蔵学園は、わが国初の七年制高等学校として 1922 年に創設されました。創始者の初代根津嘉一郎は鉄道王とよばれた実業家でしたが、1909 年、米国実業界の招きにより、当時第一銀行頭取であった渋沢栄一を団長とする渡米実業団が組織された際に、若きメンバーとしてこれに参加し、約 4 ヶ月にわたって、アメリカの 53 の都市を歴訪しました。その間、ハーバード大学、イエール大学、ジョンズ・ホプキンス大学、カリフォルニア大学など 13 の主要な大学を訪れたとの記録が残されています。米国滞在中、ロックフェラーを始めとする米国の著名な財界人が巨額の私財を投じて公共事業に尽力している姿に触れ、育英事業への志を深くしたそうです。帰国後、教育事業構想を実現する為に、当時、日本の教育界の重鎮であり、教育会議の改革派メンバーであった一木喜徳郎、山川健次郎などと相談。私財 360 万円を投じて、財団法人根津育英会を設立し、旧制七年制武蔵高等学校を開校したのです。因みにこの額を現在の貨幣価値に換算すると実に 974 億円になるそうです。

根津嘉一郎の語録には、『社会から得た利益は社会に還元する義務がある』、『国家の繁栄は育英の道に淵源する』などがあり、これらの考えを実践したのが旧制武蔵高等学校創設だったわけです。

第二次世界大戦終了後、教育制度改革を余儀なくされた我が国では、旧制七年制高等学校が廃止され、1947 年、教育基本法の制定に伴い、義務教育として小学校・中学校の 9 年、その上に高等学校、更に大学が置かれる学校制度が出来上がりました。旧制武蔵高等学校は新制武蔵中学・高等学校となり、1949 年に経済学部単学部として武蔵大学が創立されたのです。以後、1969 年に人文学部が、1998 年には社会学部が開設され、2022 年、新たに国際教養学部が作られ、4 学部からなる武蔵大学となりました。

先程、高橋学長も述べられましたが、武蔵学園は、建学以来、三つの理想を掲げて教育を行っています。繰り返して紹介いたします。

建学の三理想とは、

- 一． 東西文化融合の我が民族理想を遂行し得べき人物
- 二． 世界に雄飛するにたえる人物
- 三． 自ら調べ自ら考える力のある人物

を育成する事です。

この三理想は作られてから実に 100 年余の年月が経つのですが、全く色褪せることなく、むしろ、急激に国際化が進みグローバル化が叫ばれている現代において一層輝きを増している極めて適切な教育理念であり、改めて本学の先駆者に深い敬意を表すものです。そして、この理念に基づいた教育が今日に至るまで連綿と行われ、多くのグローバル人材を輩出してきた事は武蔵学園の大きな誇りです。

現在、我が国は少子高齢化という大変深刻な問題に直面しています。2022 年度の出生数は初めて 80 万人を割り、77 万人となり、少子化に歯止めがかかりません。

社会の生産活動を中心になって支える 15-64 歳の人口を「生産年齢人口」と呼びますが、この年齢層は、労働の中核的な担い手として、経済に活力を生み出す一方、社会保障を支える存在でもある訳ですが、ピーク時の生産年齢人口は 1995 年には 8716 万人であり、総人口の約 70%を占めていましたが、少子高齢化に伴い、2023 年時点では、7400 万人に減少し、総人口に占める割合は約 60%にまで低下しています。生産年齢人口は今後も大きく減少する見通しで、国立社会保障・人口問題研究所が公表した推計によると、総人口は 2053 年に 1 億人を割り込み、このときの生産年齢人口の割合は 51.6%と、ピーク時から 18%も低下する見通しだそうです。少子高齢化で 65 歳以上の高齢者人口が拡大する一方、若年者人口が大きく減るためです。

このように人口減少社会が避けられないことから、公共サービスの持続可能性や質の高い教育や介護などの提供にも強い懸念が出されています。生産活動を持続するには、女性や高齢者の社会進出を促す必要がある一方、これらの課題解決の切り札となるのは、人工知能（AI）やロボットなどを活用し、作業を自動化する取り組みやビッグデータ活用の効率化を図り、将来を見据えた DX 戦略の推進であることは論をまちません。

武蔵学園では、データサイエンス教育を今後の学園の重要なテーマと捉え、全学的な取り組みを始めています。皆さんも「生成 AI 時代の教育デジタル化」に適切な対応ができるように準備して下さい。

経済協力開発機構 (OECD) では 3 年毎に 15 歳を対象に学習到達度調査を実施していますが、2022 年に行われた数学的、科学的リタラシー、読解力などを対象とした調査では、日本は OECD 加盟 38 ケ国中いずれも 1 位、2 位であり、我が国の高校生の学力はこの 3 分野で世界トップレベルでした。一方、大学一年生の勉強時間を日米で比較した調査結果をみると、一週間で 11 時間以上予習や復習をしている大学一年生は米国では 58.4% であるのに対して、日本では 14.8% のみ。一方で 1 ~ 5 時間の予習、復習しかしていない大学生一年生はアメリカでは 15.3% であるのにたいして、日本では 57.1% だそうです。全く予習・復習をしない学生はアメリカでは 0.3% であるのに対して、日本では 9.7% という数字が出ています。皆さんには大学生活において自分が興味を持つ学問領域を更に深く学び、新たな気づきを感じる事の楽しさを十二分に味わって欲しいのです。慶應義塾の創始者である福沢諭吉は「学問のすすめ」の中で、学問の本質は、出来上がった知識を単に学ぶ事ではなく、新しい知識を作り出して行く精神・身体の活動であり、まだ知られていない物、未知なる物への問いであり、その答えを求める過程こそが学問であり、人がそれぞれの社会的役割を果たすための「術」が学問であると述べています。

また、皆さんには、現在の課題解決のみならず、未来を予測し来たるべき時代にも対応出来るリーダーになることを期待しています。先程は人口予測のお話をしましたが、現在、各領域で「技術革新」の未来予測が、盛んに行われています。私の専門の医学領域では、人類が地球を離れて月やその他の惑星に行く時代が到来することにより、宇宙医学が重要な研究領域になることでしょう。AI が医師に替わって病気の診断をしたり、ロボットが外科手術をする時代に変わりつつあります。医師の役割が大きく変化する事でしょう。技術革新により、安価で迅速な遺伝子解析が可能になると、ゲノム医学が医学・医療の主流になりガンを始めとする難病の克服が実現するでしょう。遺伝子改変技術の進歩により、細胞機能を自由に調節する事が可能になり、再生医学の進歩と相俟って心臓、脳などの「重要臓器の再生技術」が進む事で医療は大きな転換期を迎えるかもしれません。技術革新が物凄い勢いで進む時代です。皆さんにはそれぞれが専門にしている学問分野のみならず、他分野にも目を向け、未来を予測しながら自分の進むべき道を考えて下さい。

これまで専門学問領域として広く文系・理系という分類がなされて来ました。自分は文系人間だ、或いは、理系人間だという話も良く聴きます。武蔵大学は経済学部、人文学部、社会学部、国際教養学部の四学部からなっており、その意味では文系の大学と考えられてきた訳ですが、この考え方は適切なものでしょうか？ 国際化が進む 21 世紀の大学教育においては、これまでの専門教育の体系だけにこだわらず、文理の壁を越えた新たな学問体系を再構築する必要があります。文系と言われていた学問領域においても数学や科学的なものの考え方を身につけることが当たり前のことになって来ています。皆さんには、優れた観察力、科学的な思考過程を身につけ、創造性豊かな議論が出来る人物になって貰いたいと思っています。

武蔵大学では、世界に雄飛する人材の育成に向けて、海外留学支援のための奨学金制度の充実を図っています。皆さんはこれからの大学生活で、教養を十分に身につけ、外国語を自分のものとし、ゼミなどを通して討論する力を磨いて下さい。世界共通の言語である英語は勿論のこと、第二外国語も習得し、国内外の研究者や専門家と意見を交換し、それぞれの専門分野でグローバルリーダーとして活躍出来る人になって欲しいと願っています。

武蔵野の面影を残す、自然豊かなこの美しいキャンパスで皆さんが心身ともに健康に、学問に励み、運動部や文化クラブ活動を通じて楽しい日々を送られる事を祈念して、私の祝辞と致します。

皆さん、ご入学おめでとうございます。

令和 6 年 4 月 2 日

武蔵学園 学園長 池田康夫